

神田秘帖

「6. 悲願の日本透析医会法人化」 山崎親雄

神田秘帖3で、都道府県透析医会連合会（以下連合会）の発足について、昭和53年12月に、“日本透析医会”発起人が東京で開催され……としましたが、「昭和53年12月02日、那覇で開催された第22回日本透析研究会で、設立説明会が開催された（長谷川辰寿：愛知）」という一文を発見しました。これこそが設立準備のための最初の会議であったと思われ、訂正します。

さて、連合会当初の目的であった昭和56年06月の診療報酬改定対応が不首尾であったことにより、連合会の執行部再編、活動見直しが内部的に提起されたことは必然だったと思われ、昭和57年4月18日の総会では、透析医療の本質に立脚した事業展開、社団法人化を第一の目標とするなどが会員に提示され承認されました。

早速、同年07月22日には法人設立準備委員会が開催され、法人化のための精力的な活動が始まりました。また、将来の法人化を目指して、組織の名称が日本透析医会とされ、その事業活動の一部として日本透析医会雑誌の発行が始まりました。

昭和60年10月30日発行のVol.1（No.1）では連合会から日本透析医会への推移が、昭和63年03月20日発行のVol.2（No.3）通算6号は法人化記念特集号とされ、稲生綱政会長が「私の日記帳より」と題して、法人化までの60回以上に及ぶ会議と関係団体との折衝について回顧録を執筆され、また平澤由平副会長は、社団法人日本透析医会誕生までの歩みと題し、折衝の具体的内容や、問題点とこれからの事業について詳細に述べておられます。さらに鈴木満常務理事は、具体的な委員会活動について書かれており、災害時救急透析医療委員会がここから始まったことと、維持透析における薬剤や医療材料、および定期検査の適正かつ標準的な使用、および実施について述べておられます。後者についてはその後、診療報酬上での包括へつながっており、すでにこの時点から問題になっていたものと推測します。

いずれにしましても、連合会時代から始まった法人化運動は、幾多の紆余曲折を経たのち、最終的には、日本医師会の了解と、厚生省の承認が鍵となっていました。

まず、最初の花岡日本医師会会長との面談では、活動実績が不足しているうえに組織率60%の低さが問題とされ、併せて、限られた透析医ではあったがいくつかの不祥事に参与したことを反省し、今後こうしたことが二度と生じないような自浄作用を持つことと、透析医の地域医師会への参加が求められました。ほぼ4年を経て、日本医師会の提示した問題の解決に努力したことが認められ、昭和62年02月03日付で日本透析医会の法人化について、当時の羽田春兔会長名で承認され、賛同が得られたことになりました。

一方、厚生省との折衝では、昭和 60 年 04 月 02 日付の厚生省保健医療局結核難病課窪木外造課長より連合会平澤由平会長あてに、法人化のためには

- ① 会員の組織率を 80% 以上とし、地域偏在がないようにすること
- ② 今後の事業実績等を報告すること
- ③ (社)日本医師会と随時協議し、できるだけ早い時期に(社)日本医師会の同意を得ること

という 3 条件が提示されました。最終的には、昭和 63 年 3 月 20 日付の保健医療局結核難病感染症課による日本透析医会の法人化についての見解では、

- ① 会員組織率について、60 年 04 月 765 人 (58.8%) が 61 年 10 月 1,160 人 (89.1%) と改善されたこと
- ② 日本透析医会雑誌の発行など事業実績報告を継続していること
- ③ 日本医師会の同意済み

が確認され、

- ① 法人化に長年努力してきたこと
- ② 法人化 3 条件を満足するに至ったこと
- ③ 今後、腎不全対策を推進するにあたり、腎不全の予防及び腎移植の推進を含め、同会に参加する透析医の協力を確保することが必要・不可欠であることから、同会の申請を受け、認可手続きを進めること
としたい

という文書連絡があり、昭和 62 年 07 月 21 日付け厚生省取健医 171 号で、斎藤十朗厚生大臣名で、社団法人日本透析医会の設立を民法(明治 29 年法律第 89 号)第 34 条の規定により許可する旨の設立許可証書が提示されました。

ちなみに、58 年 8 月から始まった法人基金としての預託金の募集は、昭和 62 年 03 月 31 日現在で 210,980,000 円に達していました。

ここに、昭和 58 年以来の悲願であった社団法人日本透析医会が設立されました。

ちなみに、神田秘帖は公式記録(日本透析医会雑誌)にはない、事務局保管の文書を中心に執筆してきており、今しばらくはこれを続けるつもりでいます。次号では、法人化前後で取り組まれた臨床工学技士誕生について書きます。

日本透析医会名誉会長/増子クリニック 昴